

覚せい剤乱用者（35歳・男性・無職）

粉雪が舞うころ、私はひとり、そう私はひとりぼっち。思えば、後悔ばかりの人生でした。私の後悔とは、たった1度の過ちからでした。

この世の中、知らなくてもいいことがたくさんあります。私は知らなくてもいい覚せい剤という悪魔の世界に手を染めたのです。高校生のころ、近所の悪いセンパイに、「いいものあるぞ」と覚せい剤を見せられ、「やってみないか」と誘われ、「1度やってみたい」「少しくらいならすぐにやめられる」「先輩の誘いを断ったら、なんかビビっているみたいで格好悪い」と思ってやってしまったのです。今考えると、やめとけばよかったと、今更ながら後悔しています。

私は、過去に何度も逮捕され、今回も数年は刑務所へ行くと思います。**20年近く覚せい剤にはまり、何回も警察に捕まっては何年も刑務所へ行き、今回も出所してから2ヶ月位しかシャバにいれずに捕まってしまう、今度刑務所へ行けば、長くなり、出てきた時には40歳を越えてしまうかもしれません。**

今回、遠くにいる母が、わざわざ面会のために来てくれました。心配そうに見ている母の姿が目の奥に焼き付き、心の奥底から熱いものがこみ上げてきました。彼女とも別れ、気がつけばひとりぼっちで、寂しさが身に染みるのです。

覚せい剤をやり始めた頃はすぐにやめられると思っていた私も、結局、今までやめられなかったわけですし、周りの覚せい剤に関わった人で幸せな者は1人もいません。

少しでも、たった1回でも覚せい剤をやれば、悪魔の力に吸い寄せられるようにやめられなくなる、本当に恐ろしいものだという事だけは忘れないでください。

覚せい剤乱用者の妻（32歳）

私は今、2歳になる娘と二人で暮らしています。夫は現在刑務所に入っているからです。

娘が生まれて間もないころでした。夜中に突然電話が鳴り、受話器を取ると警察からでした。警察の方はとても落ち着いた声で「ご主人が事故を起こされました。」と言い、私はその瞬間頭が真っ白になってしまったのです。しかし、警察の方は続けて「怪我は打撲程度で体の方は心配ありません。しかし、事故を起こしたとき、覚せい剤を所持しており、使用した疑いもあります。」と言ったのです。

正直、「裏切られた」という気持ちでした。

結婚して間もない頃、やはり覚せい剤を使用したということで警察に逮捕されたことがあったのです。そのときは執行猶予がつき、もう覚せい剤には手を出さないと私に必死に謝り、私も夫を信用することにしたのです。それがまさかこんな形で裏切られることになるなんて思いもしませんでした。

私は何かの間違いではないかと何度も警察の方に言いましたが、夫も認めていると言われ、それ以上何も言えなくなっていました。数日間、親にも相談できずに娘と二人きりで、泣くことしかできませんでした。

数日後、面会が許され会いに行くと、夫は下を向いたままごめんと言わず、私はそんな姿を見た途端何も言えなくなってしまい、15分間ただそこにいることしかできませんでした。

その後も何度か面会に行き、主人が本当に反省していると涙を見せる度、私も泣いてばかりはいられないと思うのですが、家に帰ると、途端に夫の会社のことや子どもの将来のことが不安になってきて眠れない夜が続きました。

そんなある日、夫から「刑務所に行くことになると思う。今度こそ本当に2度と薬に手を出さないようそこで頑張ってくるから待っていてほしい。」と言われたのです。刑務所がどんなところなんて想像も付かないものがこんなに身近なものになるなんて…。数ヶ月後、本当に夫は刑務所へ行ってしまいました。現在、私は娘と実家へ戻り、両親と暮らしています。

薬物というものがその人だけでなく、その周りにも大きな影響を与えるものだという事、そこからは何も良いことなど得られないのだということをみなさんにもっと知ってほしい。薬物は自分には関係ないと思っても、身近にあるものなのです。